

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

大学生の違法薬物への意識に関する実態調査

著者	西城戸 誠
出版者	法政大学人間環境学会
雑誌名	人間環境論集
巻	10
号	1
ページ	53-62
発行年	2009-11-01
URL	http://hdl.handle.net/10114/6312

【調査報告】

大学生の違法薬物への意識に関する実態調査

西城戸 誠

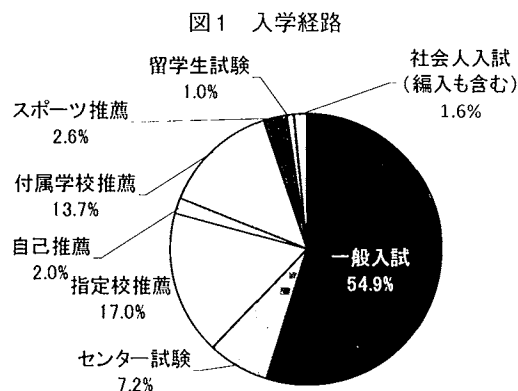
1 はじめに

大学生による違法薬物に関わる事件が頻発している。法政大学でも2008年10月に大麻所持の問題が発覚したことは記憶に新しい。法政大学では同年10月から大麻等薬物使用防止対策を行っているが、人間環境学部では主に学部1年生向けの必修講義「人間環境学入門」において、「薬物乱用防止教育」を実施した（2009年4月22日）。さらに、この薬物乱用防止教育の講義の中で、本学部の学生の違法薬物に対する意識を確認するためにアンケート調査と実施した。本稿はその調査結果をまとめたものである。

本調査の調査項目の設計については、早稲田大学学生部発行の「WASEDA WEEKLY」（2009年3月18号）を参照した¹⁾。以下の分析・考察においても比較対象のために必要に応じて、早稲田調査の結果を参照することにした。

2 回答者のプロフィール

本調査を実施した人間環境学入門は、1年次の必修科目であり、クラス別に2コマ（1時限目と6時限目）に開講している。本調査の有効回答数は305であり、性別ごとでは男子：151名、女子：153名、学年では1年次生が全体の94.4%を占めている。また、1年次生で現役学生は81.4%（N=227）である。さらに、回答者の入学経路を示したものが、図1である。なお、以下で述べる違法薬物への意識等の項目について現役学生とそれ以外、回答者の入学経路別において、統計的に有意な回答の差は見いだせなかった²⁾。したがって、以下の分析においては、主に性別ごとの分析を行うことにする。



3 違法薬物に対する意識

さて、回答者の薬物に対する意識、イメージはどのようなものであろうか。図2は回答者全体、図3は男子学生、図4は女子学生の結果を示したものである。

図2から基本的に違法薬物に対してマイナスのイメージを持っている学生が多いことが分かる。また、「気持ちよくなれる」「ストレス解消によい」「ダイエットに効果がある」「眠気覚ましに効果がある」など違法薬物による効果について世間で喧伝されている情報も共有されていることが見いだせる。

男子学生と女子学生を比較すると、男子学生の方が「使用・所持は悪いことだ」という回答が少なく、「一度くらいなら害は少ない」「タバコより害が少ない」を「そう思う」という回答が多いことが分かる。ここから男子学生の違法薬物のモラルの相対的な低さが伺える。一方、女子学生は、「薬物中毒になる可能性がある」「犯罪に巻き込まれる可能性がある」という項目について「そう思う」という回答が多い。だが一方で、「そう思わない」という回答も女性が多い。上記の結果を併せて考えると、女子学生の薬物

図2 薬物についての意識 (全体)

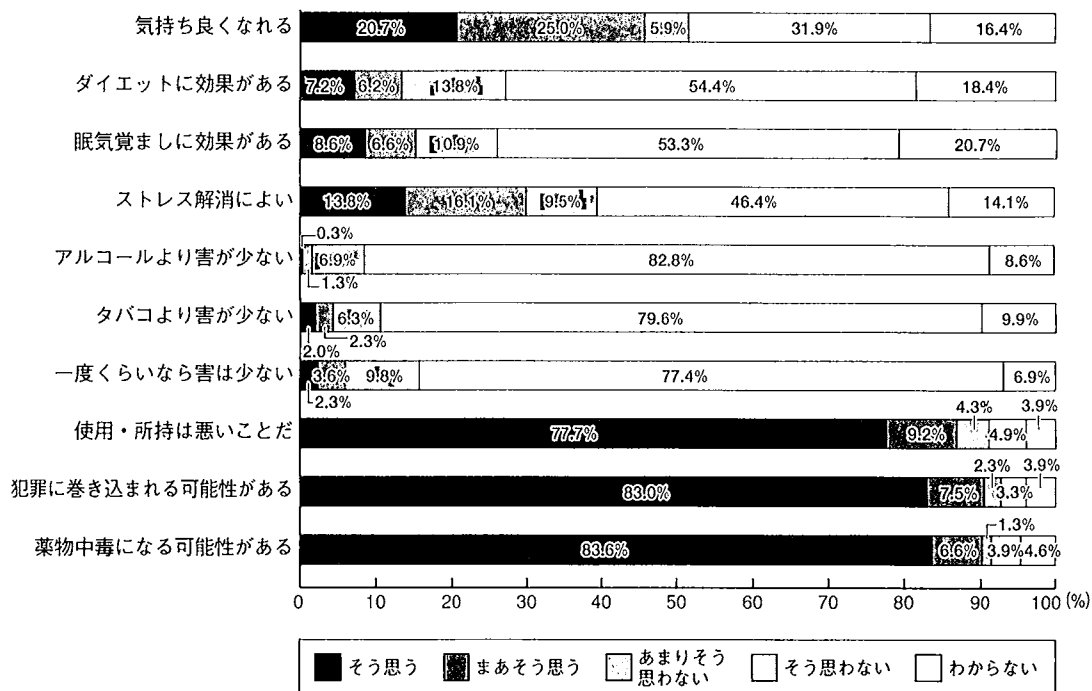


図3 薬物についての意識 (男子学生)

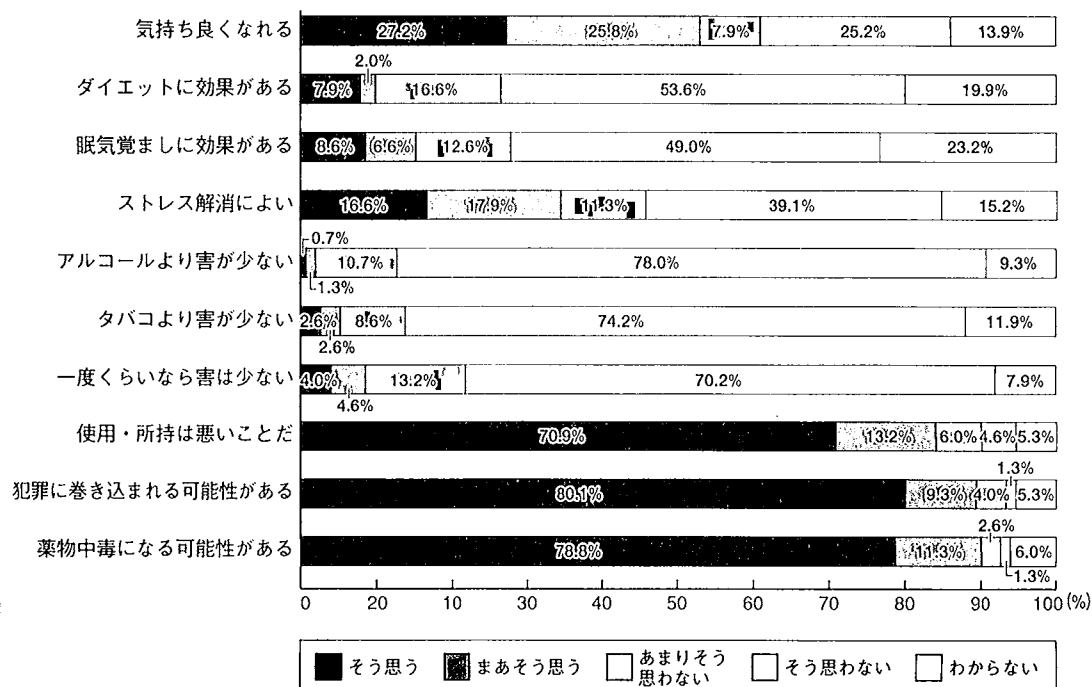
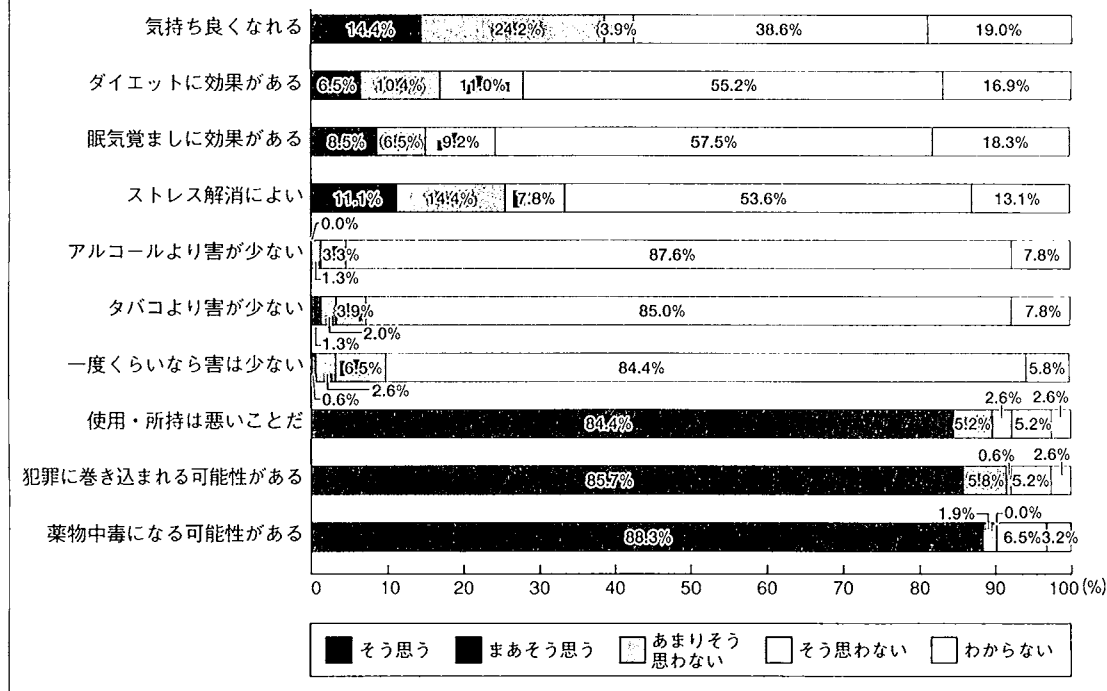


図4 薬物についての意識（女子学生）



に対するモラルの高さと同時に、「自分にはそもそも違法薬物は関係がない」という薬物自体への関係性のなさによる無関心さが伺える。

さらに、違法薬物に対する潜在的な関心の男女差を見ると、「ストレス解消によい」という点は男子学生に多く、「ダイエットに効果がある」という点は女子学生に多い。それぞれの日常的な関心と違法薬物の効能として指摘されている点が相俟って、このような回答になったと考えられる。その証左として、「アルコールより害が少ない」「眠気覚ましに効果がある」という項目への関心度は男女差はほとんど見られない。

4 薬物防止講習について

上述したように、法政大学の大麻等薬物使用防止対策の一環として、本学部の必修科目の中で薬物防止講習を実施したが、大学入学以前の段階でどの程度、薬物講習を受講しているのだろうか。図5は薬物防止講習の受講の有無を尋ねた結果である。中学校や高等学校で受講をしている学生が多いことが分かるが、全く受講したことがないという回答も1割程度存在する。

また、自由回答欄には「講習の内容についてすでに知っていることが多い」という回答も見られたが、多くの学生が「ためになった」と回答し、「これまで習ってきた内容よりもリアル（例えば、幻覚作用のイメージ画像）であり、改めて薬物の怖さを知った」という声も見られる。これらの点も踏まえても、大学における薬物防止講習は必要であるといえるだろう。

次に、薬物に対する知識の有無について見ていこう（表1～3）。違法薬物が使用だけでなく、所持や栽培でも法律違反に当たるという点については、9割以上の学生が知っていた（表1）。だが、「他国での死刑や終身刑の可能性」について、知っている人は半数に満たない（表2）。また、大麻が覚醒剤などの他の違法薬物の入り口となる「ゲートウェイドラッグ」であることについての知識も7割ほどにとどまっている（表3）。また、表2、3から分かるように、違法薬物へのそもそもの関心の薄さからか、女子学生が「知らない」という回答がやや高いことが見いだせる。

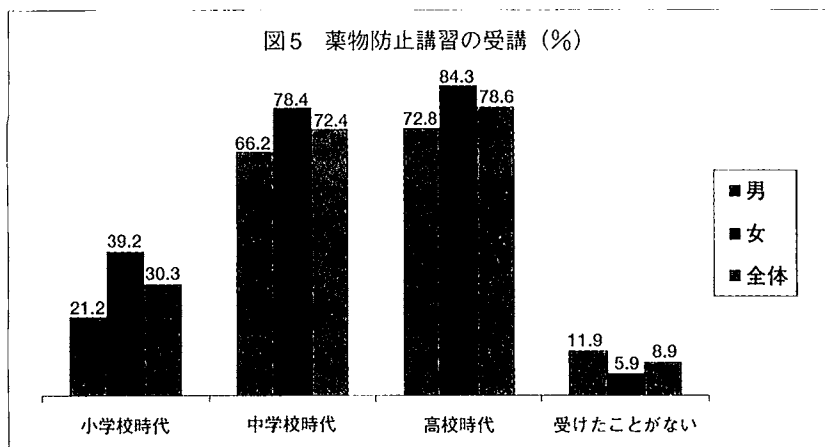


表1 所持や栽培が法律違反に当たる (%)

	知っている	知らない	合 計
男	94.7	5.3	100 (151)
女	96.1	3.9	100 (152)
全体	95.4	4.6	100 (303)

表2 国によっては死刑や終身刑に処される (%)

	知っている	知らない	合 計
男	47.0	53.0	100 (151)
女	40.1	59.9	100 (152)
全体	43.6	56.4	100 (303)

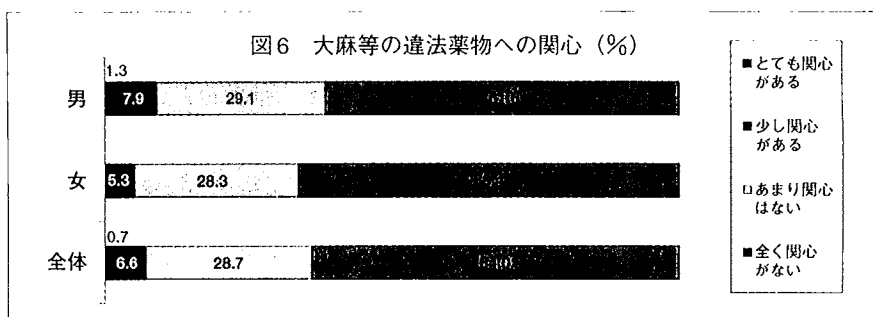
表3 大麻が「ゲートウェイドラッグ」である (%)

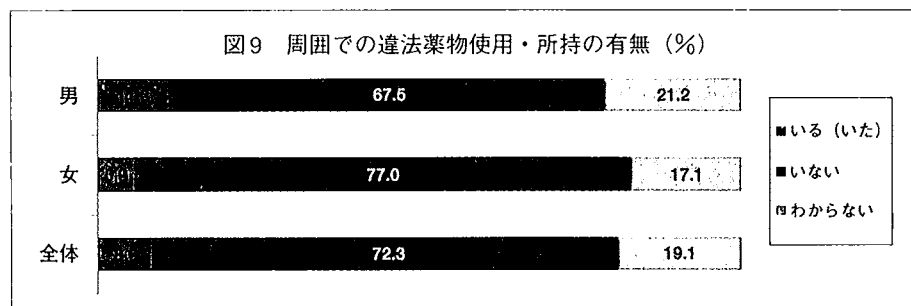
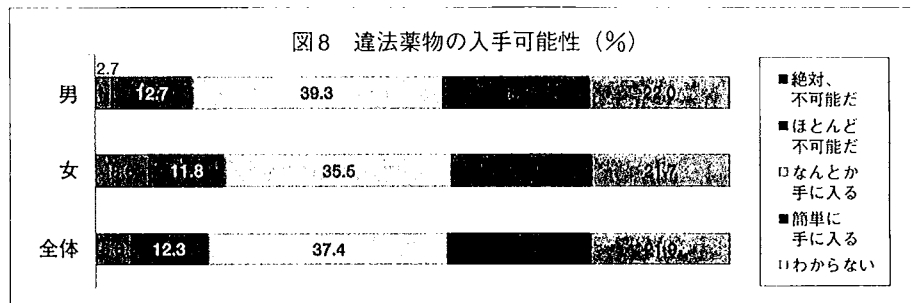
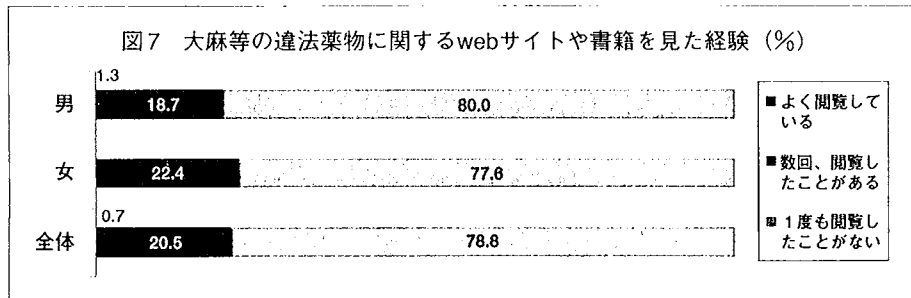
	知っている	知らない	合 計
男	79.5	20.5	100 (151)
女	70.4	29.6	100 (152)
全体	74.9	25.1	100 (303)

5 違法薬物への関心および入手可能性・周囲の所持状況

続いて、違法薬物への関心度について見ていこう。図6は大麻等の違法薬物への関心を尋ねた結果である。「とても関心がある」「少しは関心がある」という回答をした学生は合計すると全体の7.3%であり、男女別では男子学生の方が高い (9.2%)。早稲田大学の調査結果 (全学年) と比較すると、違法薬物への関心 (「とても関心がある」「少しは関心がある」の合計) は、法政大学人間環境学部では男子学生が9.2%、女子学生が5.3%に対して、早稲田大学は、男子学生が8.3%、女子学生が7.3%であった。法政大学の男子学生の方が関心は高く、女子学生は低いことが伺える。

一方、図7は大麻等の違法薬物に関するwebサイトや書籍を見た経験を示したものであるが、全体の2割の学生が数回でも閲覧したと回答している。なお、早稲田大学の調査結果も、「よく閲覧している」が1.6%、「数回、閲覧したことがある」が26.0%である。



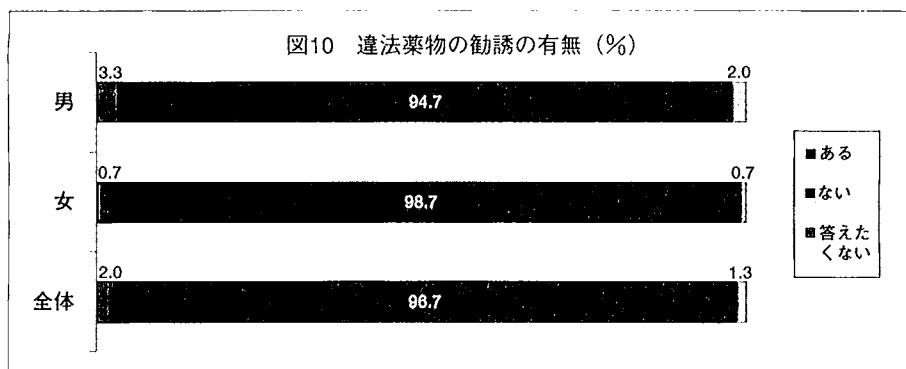


さて、以上の結果から、法政大学人間環境学部の学生は、違法薬物への関心があるといえるのであろうか。自由回答欄を見ると、確かに違法薬物によって「気持ちよくなれるかどうか」という回答もごく少数であるが見られる。しかしながら、学生の違法薬物への関心は、自分の使用に関する関心というよりも、有名人、スポーツ選手などが使用することへの関心であることが多い。自由回答欄の結果だけを鵜呑みにすることはできないが、「違法薬物への関心＝薬物の使用可能性」と結論づけることは早急であるかもしれない。

だがその一方で、現在の大学生の違法薬物への入手可能性(図8)について尋ねると、全体の6割が違法薬物が「簡単に手に入る」「なんと

か手に入る」と回答し、違法薬物が大学生の生活の中で日常的な存在であることが分かる。早稲田大学での調査結果と比較すると、法政大学が「簡単に手に入る」22.8%、「なんとか手に入る」37.4%に対して、早稲田大学は、「簡単に手に入る」17.3%、「なんとか手に入る」36.3%、「ほとんど不可能」18.6%、「絶対に不可能」8.7%、「わからない」19.1%であり、「簡単に手に入る」という回答は法政大学の学生の方が多い。

次に、周囲での違法薬物使用・所持の有無(図9)を尋ねると、全体で8.6%、男子学生は11.3%、女子学生は5.9%が周囲に違法薬物の所持、使用者がいると回答している。早稲田大学と比較すると、周囲の所持・使用者がいる学生は、法政大学の男子学生は11.3%(DK21.2%)、女子学



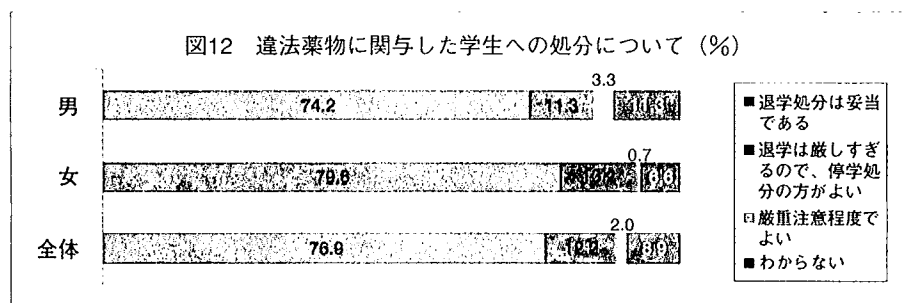
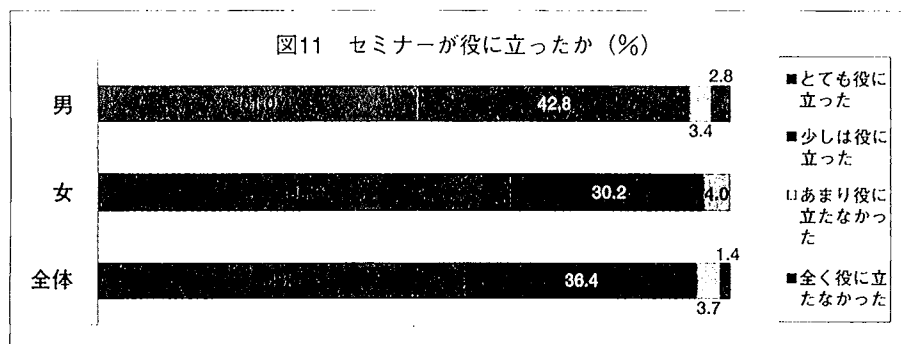
生は5.9% (DK17.1%) に対し、早稲田大学の男子学生は9.4% (DK23.6%)、女子学生は11.1% (DK21.7%) となっている。違法薬物の入手可能性に関して、男子学生は法政大学の方が若干多いが、女子学生に関しては、法政大学人間環境学部の方が半分程度である。

さらに、違法薬物の勧誘の有無を聞いた結果 (図10) を見ると、全体で2.0%、男子学生で3.3%、女子学生で0.7%が勧誘を受けている。なお、違法薬物の勧誘について「答えたくない」という回答を、勧誘があったけれども答えたくない人と拡大解釈をすれば、さらに勧誘された経験者

の率は上がる。ただし、早稲田大学では勧誘された経験がある男子学生は5.6%、女子学生は5.8%であり、勧誘という点については法政大学人間環境学部の方がその率が低いことが分かる。

6 まとめにかえて

昨年から法政大学以外でも、大学生の違法薬物の所持・使用に関する事件が立て続けに報道されているが、さらに2009年夏には有名人の薬物使用が世間の話題を賑わした。本調査報告の結果は、残念ながら、現在の日本の大学生にとって、違法薬物は日常的な存在となってしまう



たということを示唆している。もっとも法政大学人間環境学部に限って言えば、特に女子学生は、早稲田大学のデータと比較すると違法薬物への関心、接触は低いとも言える。だが、総じて「どの大学のどの学生も同じ状況」であると言った方が正しいであろう。このことは本学の学生もちょっとしたきっかけから違法薬物に接する機会を持つ可能性があることを意味している。違法薬物の所持・使用の低年齢化も指摘されている中、今後も薬物乱用防止教育を継続する必要がある、本調査のような大学生に対する意識調査も継続的に、かつ、早稲田大学調査のように全学的に実施することが重要であろう。

註

- 1) 本調査の具体的な項目については、巻末資料を参照のこと。また、早稲田大学調査の設計にあたった嶋崎尚子氏（早稲田大学大学院文学学術院教授）から、事後的ではあるが調査票項目の使用許可を頂いた。記して感謝したい。
- 2) また、以下の分析では、サンプルサイズの問題や、サンプリングにも課題があるため、統計的検定は実施しなかった。

資料 調査票と単純集計

各設問の回答者の割合（％）と実数（N）を記載した。実数は無回答・不明を除いてある。なお、以下の調査票のレイアウトは、回答者の割合と実数を記載したため、若干変更してある。

違法薬物への意識と薬物防止セミナーに関する調査（法政大学・人間環境学部）

本日の講義が始まる前に、問1～問11までの質問に答えてください。セミナー終了後、問12～問13まで回答し、提出してください。

問1 あなたのことをお伺いします。（ ）内に当てはまる箇所の番号に○をつけてください。

(1) 性別 (1 : 男 (49.5% N=151) 2 : 女 (50.5% N=154))

(2) あなたの学年 (1 : 一年時生 (94.4% N=288) 2 : 二年時生以上 (5.6% N=17))

(3) あなたが高校を卒業したのは何時ですか。(1 : 今年の3月 (76.7% N=227) 2 : 昨年以前 (23.3% N=69))

(4) あなたの入学経路はどれですか。

1 一般入試 (T日程・A方式) (54.9% N=168)

2 大学センター試験 (7.2% N=22)

3 指定校推薦 (17.0% N=52)

4 自己推薦 (2.0% N=6)

5 附属学校推薦 (13.7% N=42)

6 スポーツ推薦 (2.6% N=8)

7 留学生試験 (1.0% N=3)

8 社会人入試 (編入も含む) (1.6% N=5)

問2 あなたは、大麻等の違法薬物に対して、どのようなイメージ・意識を持っていますか。それぞれの項目について、当てはまる箇所の番号に○を一つつけてください。

	そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない	わからない
1 気持ちよくなれる	20.7% (N=63)	24.9% (N=76)	6.2% (N=19)	31.8% (N=97)	16.4% (N=50)
2 ダイエットに効果がある	7.2% (N=22)	6.2% (N=19)	14.1% (N=43)	54.2% (N=166)	18.8% (N=56)
3 眠気覚ましに効果がある	8.5% (N=26)	6.6% (N=20)	11.1% (N=34)	53.1% (N=162)	20.7% (N=163)
4 ストレス解消によい	10.8% (N=42)	16.1% (N=49)	9.8% (N=30)	46.2% (N=141)	14.1% (N=43)
5 アルコールより害が少ない	0.3% (N=1)	1.3% (N=4)	7.2% (N=22)	82.6% (N=251)	8.6% (N=26)
6 タバコより害が少ない	2.0% (N=6)	2.3% (N=7)	6.6% (N=20)	79.3% (N=242)	9.8% (N=30)
7 一度くらいなら害は少ない	2.3% (N=7)	3.6% (N=11)	10.1% (N=31)	77.1% (N=236)	6.9% (N=21)
8 使用・所持は悪いことだ	77.5% (N=237)	9.2% (N=28)	4.6% (N=14)	4.9% (N=15)	3.9% (N=12)
9 犯罪に巻き込まれる可能性がある	82.7% (N=253)	7.5% (N=23)	2.6% (N=8)	3.3% (N=10)	3.9% (N=12)
10 薬物中毒になる可能性がある	83.3% (N=255)	6.5% (N=20)	1.6% (N=5)	3.9% (N=12)	4.6% (N=14)

問3 あなたは、いままで「薬物乱用防止」に関する講習会や授業を受けたことがありますか。ある場合はいつ頃ですか。当てはまる箇所の番号に○をつけてください（複数回答可）。

1	2	3	4
小学校時代 (30.2% N=92)	中学校時代 (72.5% N=221)	高校時代 (78.4% N=239)	いままで受けたことはない (8.9% N=27)

問4 あなたは、以下の麻薬等の薬物について知っていますか。当てはまる箇所の番号に○をつけてください。

	知っている	知らない
1 現在の日本では、大麻を使用しなくてもその所持や栽培が法律違反に当たる	95.1% (N=289)	4.9% (N=15)
2 国によっては大麻等の違法薬物の密輸、所持、使用が死刑や終身刑を含む厳罰に処される	43.4% (N=132)	56.6% (N=172)
3 大麻が「ゲートウェイドラッグ」(他の違法薬物への入り口)になり、薬物中毒になる可能性があること	74.7% (N=227)	25.3% (N=77)

問5 あなたは、現在、大麻等の違法薬物に関心がありますか。当てはまる箇所の番号に○をつけてください。

1	2	3	4
とても関心がある (問6へ)	少し関心がある (問6へ)	あまり関心はない (問7へ)	全く関心がない (問7へ)
(0.7% N=2)	(6.6% N=20)	(28.9% N=88)	(63.8% N=194)

問6 問5で1, 2に○をつけた方にお聞きします。どのような点に興味がありますか。自由にお書きください。

問7 あなたはこれまで大麻等の違法薬物に関する web サイトや書籍を見たことがありますか。当てはまる箇所の番号に○を一つつけてください。

1	2	3
よく閲覧している (0.7% N=2)	数回、閲覧したことがある (20.5% N=62)	1度も閲覧したことがない (78.9% N=239)

問8 仮にあなたが大麻などの違法薬物を手に入れようとした場合、入手可能性についてどのように思いますか。当てはまる箇所の番号に○を一つつけてください。

1	2	3	4	5
絶対、不可能だ (5.6% N=17)	ほとんど不可能だ (12.2% N=37)	なんとか手に入る (37.6% N=114)	簡単に手に入る (22.8% N=69)	わからない (21.8% N=66)

問9 あなたの周りで、大麻等の違法薬物を所持したり、使用したりしている (いた) 人がいますか。当てはまる箇所の番号に○を一つつけてください。

1	2	3
いる (いた) (8.6% N=26)	いない (72.4% N=220)	わからない (19.1% N=58)

問 10 あなたは、これまでに大麻等の薬物を他人から勧められたことがありますか。当てはまる箇所の番号に○を一つつけてください。

1	2	3
ある	ない	答えたくない
(2.0% N=6)	(96.7% N=294)	(1.3% N=4)

問 11 あなたは、大麻等の違法薬物に関与した学生が、退学処分になることに対して、どのように思いますか。当てはまる箇所の番号に○を一つつけてください。

1	2	3	4
退学処分は妥当である	退学は厳しすぎるので、停学処分の方がよい	厳重注意程度でよい	わからない
(77.0% N=234)	(12.2% N=37)	(2.0% N=6)	(8.9% N=27)

以上で終了です。記入漏れがないかもう一度、確認して下さい。セミナー終了後、裏面の質問に答えて下さい。
■■セミナー終了後、以下の質問に答えてください。

問 12 本日のセミナーは役に立ちましたか。それとも役に立ちませんでしたか。

1	2	3	4
とても役に立った	少しは役に立った	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった
(58.5% N=172)	(36.4% N=107)	(3.7% N=11)	(1.4% N=4)

問 13 本日のセミナーに対する感想をお聞かせください。
